

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	a) 学校教育自己診断(生徒)における授業満足度の肯定的回答の割合向上 外部学力調査における学習習慣の定着度および学力結果の向上 b) 授業アンケート(生徒)における「興味関心を持つことができた」、「知識・技能が身についた」の肯定的回答の割合向上 c) 学校教育自己診断(生徒)における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答の割合向上 d) ICT機器を用いた研究授業の実施回数増加。ICT機器を活用する教員の割合向上。
計画名	脱受身！ ～仕かける貝南生～

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 確かな学力の育成 (1) 「わかる授業、考える授業」をめざし授業力向上に取り組む。 ア 授業力向上委員会を核に相互授業観察、研究授業などの計画の実施、授業アンケートの効果的活用など、授業改善に組織的に取り組み、ICT機器を活用した効率的な授業についても研究を進める。 2. 安全安心で魅力のある学校づくり (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。 ア クラブや文化祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。</p>		
	<p>本校の生徒は自尊感情の低さゆえに、自己表現力の弱い傾向が見られる。授業中に自分の意見や考えを発表することに消極的で、自ら行動を起こすことは少ない。その打開のために、授業で発表する機会を増やそうとするが、効果を得ることができず、多数の生徒は「受身」で50分を漫然と過ごしている生徒が多いのが現状である。そこで、「ICT機器を効率的に活用した能動的授業」を推し進め、「受身」な生徒から脱却し、「仕かける」生徒へと変貌させる。特に次の4点を徹底する。 a) ICT機器を用いた視覚教材の活用に取り組む。プロジェクターの投影により、非日常な空間をつくり、その中で生徒に活動させる。「わかる!」「できた!」という喜びを生徒に与え、『できればやる』ではなく『やればできる』という意識をもった生徒を育む。 b) 板書の時間短縮を図り、実践・実験・実習等のアクティブ・ラーニングの時間を確保し、生徒の能動的な学習時間を増やす。 c) プロジェクターを使用し、生徒によるプレゼンテーションを多く取り入れ、自ら調べて学習する姿勢をつくり、発表する力をつけさせる。 d) 「相互授業観察」、「充実した研究授業の実施」を推進し、ICT機器を効率的に活用した授業力向上に取り組む。組織的に「わかる授業、考える授業」をめざした取組みを行い、授業満足度および学力の向上を図る。さらに、生徒の自主的な活動を活性化させ、学校生活の充実を図り、学校満足度を高める。</p>		
取組みの概要	導入・整備する 設備・物品	電子黒板機能付 短焦点プロジェクター	
	取組内容	前年度	・全教員が改善シートを作成し、授業アンケートを効率的に活用した授業力向上への取組みの実施 ・校内での研究授業の実施(6回) ・11月に実施した授業観察月間を中心とした相互授業観察の積極的実施 ・他校への授業見学を中心とした研修の実施 ・特別教室へのプロジェクター設置、学校経営推進費プロジェクトチームによるICT機器整備状況、活用状況の調査 全教室にプロジェクターが設置された際の活用予定アンケート実施 ・授業力向上委員会の再編(2月)、パッケージ研修支援IIの申請(3月)
		初年度	・パッケージ研修支援IIを活用した授業力向上(通年) ・ICT機器を活用している教員による研究授業実施(5月・9月) ・外部学力調査の結果の分析(5月・10月) ・ICT機器の活用に向けて研修の実施(9月・11月) ・ICT機器を先進的に活用している学校の視察(10月) ・授業アンケート結果を受けて、各教員が改善シートを作成、分析(8月・1月) ・相互授業観察および研究授業の実施(通年) ・各教員がICT機器を活用した授業教材を作成 ・学校教育自己診断等の結果の分析と情報共有(2月) ・今年度の取組みに関して分析、改善に向けて検討(2月) ・総合的な学習の時間を活用し、プレゼンテーション指導、発表会実施(2学期後半～3学期)
		2年目	・授業力向上委員会が中心になり、授業観察、研究授業の実施(通年) ・外部学力調査の結果の分析(5月・10月) ・ICT機器活用研修の実施(9月・11月) ・各教科にてICT機器を活用した研究授業実施(11月) ・ICT機器を先進的に活用している学校の視察(10月) ・授業アンケート結果を受けて、教科での分析・改善の実施(8月・1月) ・各教科でICT機器を活用した授業の教材の集約、共有(2月) ・学校教育自己診断等の結果の分析と情報共有(2月) ・今年度の取組みに関して分析、改善に向けて検討(2月) ・総合的な学習の時間を活用し、プレゼンテーション指導、各学年でのプレゼンテーション大会実施(2月)
		3年目	・授業力向上委員会が中心になり、授業観察、研究授業の実施(通年) ・校外教員も対象とした研究授業、協議実施(9月・11月) ・外部学力調査の結果の分析(5月・10月) ・学校全体としてICT機器を活用した研究授業実施(11月) ・授業アンケート結果を受けて、教科での分析・改善の実施(8月・1月) ・各教科作成の教材集の充実、学校としてICT機器を活用した授業の教材集作成(2月) ・学校教育自己診断等の結果の分析と情報共有(2月) ・今年度の取組みに関して分析、改善に向けて検討(2月) ・プレゼンテーション大会の実施(各学年優秀グループが体育館で発表)、外部指導員による評価・指導(2月)
	取組みの 主担・実施者	取組みの主担：首席を主担とした授業力向上委員 取組みの実施者：全教員	
成果と 評価指標 方法	初年度	a) 学校教育自己診断(生徒)：授業満足度(平成28年度56%)を60%にする。 学力調査(学力結果)1年4月から2年4月への変化(平成28年度-30.9ポイント)を-27ポイントにする。 b) 授業アンケート(12月実施)：「興味関心を持つことができた」のよくてはまる(平成28年度27.1%)を30%にする。 「知識・技能が身についた」のよくてはまる(平成28年度28.6%)を32%にする。 c) 学校教育自己診断(生徒)における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答(平成28年度51%)を55%にする。 d) ICT機器を用いた研究授業を2回行い、ICT機器を活用する教員の割合を60%にする。	
	2年目	a) 学校教育自己診断(生徒)：授業満足度を65%にする。 学力調査(学力結果)1年4月から2年4月への変化を-24ポイントにする。 b) 授業アンケート(12月実施)：「興味関心を持つことができた」のよくてはまるを33%にする。 「知識・技能が身についた」のよくてはまるを35%にする。 c) 学校教育自己診断(生徒)における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答を60%にする。 d) ICT機器を用いた研究授業を4回行い、ICT機器を活用する教員の割合を70%にする。	
	3年目	a) 学校教育自己診断(生徒)：授業満足度を70%にする。 学力調査(学力結果)1年4月から2年4月への変化を-20ポイントにする。 b) 授業アンケート(12月実施)：「興味関心を持つことができた」のよくてはまるを36%にする。 「知識・技能が身についた」のよくてはまるを38%にする。 c) 学校教育自己診断(生徒)における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答を65%にする。 d) ICT機器を用いた研究授業を6回行い、ICT機器を活用する教員の割合を80%にする。	

3. 事業費

事業費総額	3,970,944	円
-------	-----------	---

積算内訳

科目(節)	番号	内訳	1年目	2年目	3年目	単価	数量	金額
1 報償費	1							
	2							
	3							
							小計	
2 旅費	1							
	2							
	3							
							小計	
3 消耗需用費	1							
	2							
	3							
							小計	
4 維持需用費	1							
	2							
	3							
							小計	
5 役務費	1							
	2							
	3							
							小計	
6 委託料	1							
	2							
	3							
							小計	
7 使用料 及び賃借料	1							
	2							
	3							
							小計	
8 備品購入費	1	電子黒板機能付 超短焦点プロジェクター一式(設置工事費含む)				¥330,912	12	¥3,970,944
	2							
	3							
							小計	¥3,970,944
9 工事請負費	1							
	2							
	3							
							小計	
10 負担金・補助 及び交付金	1							
	2							
	3							
							小計	
							合計	¥3,970,944

積算内訳